

「青森県子どもの生活実態調査」に対する委員からの意見と対応状況

区 分	意 見 の 内 容	対 応 状 況
全般	精神疾患などの配慮を要する方々の世帯の対応はどうするのか。	調査票の説明書きに「(回答を)途中でやめても構いません。」と追記する。
全般	対象人数が少ない。県内のひとり親家庭の状況を見てみると、郡部と都市部での地域差が生活実態に大きく影響している。	市町村を問う項目を設定する。
子ども票	「学校に行きたくないと思った」「1ヶ月以上学校を休んだ」「いじめられた」等の質問は、子どもには辛い質問ではないか。	他県でも採用しているものであり、貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる設問である。
子ども票	「自分は友だちとくらべて違うと思う」という質問は「何が」という疑問を持たれないか。	周りの子どもと比較して違うと感じるかどうかを問う設問は子どもの貧困の実態を把握する上で必要となる設問である。
子ども票	将来の夢がない理由として「もうすべてに満足しているから」は、子どもにふさわしくない回答項目ではないか。	他県でも採用しているものであり、貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる設問である。
保護者票	保護者のうつ状態に係る設問に疑問がある。	他県でも採用しているものであり、貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる設問である。
保護者票	保護者のうつ状態に係る設問について、「B 絶望的だと感じましたか」の順序を最終のFにしたほうがよい。	他県でも採用しているものであり、貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる設問である。
保護者票	「スポーツ観戦や劇場に行く」を「スポーツ観戦や観劇(映画)に行く」としたほうがよい。	他県でも採用しているものであり、貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる設問である。
保護者票	「現実的な教育段階」について問うと、将来のことであるため、現在より改善されるという願望から、理想が現実を上回り、大学、短大等を望む保護者が多くなるのではないか。	「理想と現実」の比較を行うために必要とする設問であり、そのままとする。
保護者票	「選択肢2 子どもの学力を考慮したから」は、拙速すぎではないか。	「理想と現実」の比較を行うために必要とする設問であり、そのままとする。
保護者票	保護者の平日の日中以外の勤務時間に係る設問の選択肢は「ある」「なし」だけでよい。	様々な環境下にある貧困の子どもの実態を把握する上では必要となる選択肢である。
保護者票	保護者の最終学歴の選択肢は、小中学校、大学、専門学校でよい(細分化しすぎ)	選択肢のうち、「高等専修学校」は削除し、「高等専門学校」と「短期大学」は「高等専門学校・短期大学」とする。
保護者票	中退についての設問は不要	子どもの貧困の実態を把握する上で、保護者が中退かどうかについて確認する必要があるのでそのままとする。
保護者票	世帯の可処分所得の区分を細かくする理由は?	「低所得」を簡単に判断するために細かく設定しているものである。
保護者票	「インターネットにつながるパソコン」を「インターネットにつながるパソコン・スマートフォン等」としたほうがよい。	「電話(固定電話・携帯電話を含む)」を「電話(携帯電話・スマートフォンを含む)」に修正する。
保護者票	保護者の相談先の選択肢に「スクールソーシャルワーカー」を加えることは可能か。	選択肢に「スクールソーシャルワーカー」を加えることとする。
保護者票	今後欲しい支援等について尋ねてみてはどうか。	本調査では、貧困の状態にある家庭が必要とする支援ニーズを把握したいものであるが、自由記入欄とすると、一般的な子育て支援策を多く記載されてしまう恐れがあるため、自由記入欄は設定しないものである。
保護者票	回答に「地域があれば利用したい」とあるが、「地域があれば」を削除して「利用してみたい」としてはどうか。	委員意見のとおり訂正する。(「地域があれば」という文言に関わらず支援ニーズの把握は可能であるため)
保護者票	制度・サービスの受け取り方法について、今後の対策(周知の在り方)を考えるなら、「行政機関の広報誌」は県と市町村等に区分した方が良いのではないか。	一般県民は、県と市町村の広報誌の違いをそれほど意識していないと思われるので、県と市町村に細分化しての調査を行う必要はないと判断する。